

補論 六坪遺跡の環境整備

1978年に左京三条二坊六坪が特別史跡に指定後、奈良市は国庫補助事業によって指定地全域を公有化した。その後指定地の整備活用を図るため、1979年12月、平城京左京三条二坊宮跡庭園復原整備基本構想委員会を下記メンバーで設立し、この遺跡の保存と活用のための総合的な*

復原整備のあり方について基本的な構想をまとめた。

基本方針としては古代における作庭、行事、雅宴などについて体験的な理解ができる復元的整備を図ることを基本とし、園池は薬剤などによる補強を行い露出展示を行う。建物1棟と塀は遺構上面に盛土して復原する。展示・管理施設を設置する。修景的な植栽を行うことなどの方針が採択された。

- * 平城京左京三条二坊宮跡庭園復原整備基本構想委員会（アイウエオ順）
- | | | | | |
|------|-------|----------------------------|-------|----------------|
| 委員長 | 豊崎 稔 | 京都大学名誉教授 | 菅沼 孝之 | 奈良女子大学助教授 |
| 委員 | 青山 茂 | 帝塚山短期大学教授 | 坪井 清足 | 奈良国立文化財研究所所長 |
| | 狩野 久 | 奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部長 | 土井 実 | 奈良文化女子短期大学名誉教授 |
| * 委員 | 木村 博一 | 奈良教育大学教授 | 西山 卯三 | 京都大学名誉教授 |
| | 工藤 圭章 | 奈良国立文化財研究所
飛鳥藤原宮跡発掘調査部長 | 森 蘊 | 庭園文化研究所所長 |
| | | | 吉川 需 | 日本大学教授 |

基本構想ののっとり、基本設計、実施設計を奈良市は環境事業計画研究所 K.K. に委託し、下記メンバーによるワーキング・グループに諮りながら事業を実施した。

- * 宮跡庭園復原整備ワーキング・グループ委員
- | | | | | |
|------|-------|--------------------------|---------------------|-----------------|
| 委員長 | 土井 実 | 奈良市文化財保護審議会会長 | 川内一郎・和田元三・山口凱之・東森正文 | 奈良県教育委員会文化財保存課長 |
| 委員 | 近藤 公夫 | 奈良女子大学教授 | 藤井 宗治 | 奈良市教育委員会教育長 |
| | 菅沼 孝之 | 奈良女子大学教授 | 中井 利夫 | 奈良市教育委員会教育次長 |
| * 委員 | 中村 一 | 京都大学教授 | 油谷 順司 | 奈良市教育委員会社会教育部長 |
| | 村岡 正 | 庭園文化研究所副所長 | 油谷順司(兼)、田辺征夫 | 奈良市教育委員会文化財室長 |
| | 八木 清勝 | (財)建築研究協会 | 田辺征夫、亀井伸雄 | 奈良市教育委員会文化財課長 |
| | 牛川 喜幸 | 文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官 | 太田慎司、窪田 靖 | 奈良市建設局建設部長 |
| * 委員 | 岡田 英男 | 奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部長 | 森田 嘉一 | 奈良市建設局建築課長 |
| | 安原 啓示 | 奈良国立文化財埋蔵文化財センター保存工学研究室長 | 北尾義夫・油谷順司 | 奈良市企画部長 |
| | 田中 哲雄 | 奈良国立文化財平城宮跡発掘調査部計測修景調査室長 | 古田育宏・辰野一郎 | 奈良市企画課長 |

事業経過としては1979年に遺跡地全体の保存のために、東側を流れる菰川沿いの境界土塁工事と排水工事を行った。1980年には周辺の排水と、池への導水をポンプによる還流式とするためのポンプ室、水門工などを、1981・1982年には復原建物の建設と、史跡文化センターの建設、文化センター・ピロティ内の遺構表示を行っている。1983年には園池修復のための素屋根*

工、池排水工、アプローチ道路などの施工を、1984年には園池修復、木塀復原、木樋、木組の復原などを、1985年には庭園部の植栽を行っている。

建物復原は遺構 SB1510 で行い、桁行6間、梁間2間、切妻造、檜皮葺で床の高い掘立柱状建物に復原している。塀の復原は遺構 SA1500, SA1455, SA1536 により高さは8尺の横板張

り板塀とした。文化センター・ピロティ内の遺構では井戸 SE1547 の井戸枠を 60 cm 立ち上げて表示する他、建物 SB1572 の縁取りと柱を 60 cm 立ち上げて表示している。また流路 SD 1525 はカラー・アスファルトで表示している。

園池 SG1504 は底石、護岸立石、岸辺の敷石、景石を露出し、外側の礫敷は樹脂で硬化後、礫敷きで覆っている。景石は摩滅が著しいため樹脂処理を行い、明らかに転倒しているものについて * は元の位置に起し、欠損している個所には補充した。護岸立石、底石についても同様の処置を施し、再利用の石は裏面に○印を、補充の新石には△印を刻印した。

木枠 SX1503・SX1563 は取り上げた後に、規格・材質などを旧来通り復原した模造品を設置している。排水木樋 SX1464 は整備後、目にふれる個所は材質・寸法を復原し、導水木樋 SX1523 も蓋と導入口の材質・規模を復原し、内部に硬質塩化ビニール管を接続させて給水を行うこととしている。池の東側に、出土した植物遺体に合わせたマツ、ウメの庭園植栽を行った他、敷地内に修景と周辺都市部との緩衝のため植栽を行っている。東側の修景植栽区域内にポンプ室の管理用道路の設置と敷地周辺に管理用フェンスを設ける他、遺構の説明・表示板を 4 個所に設置している。

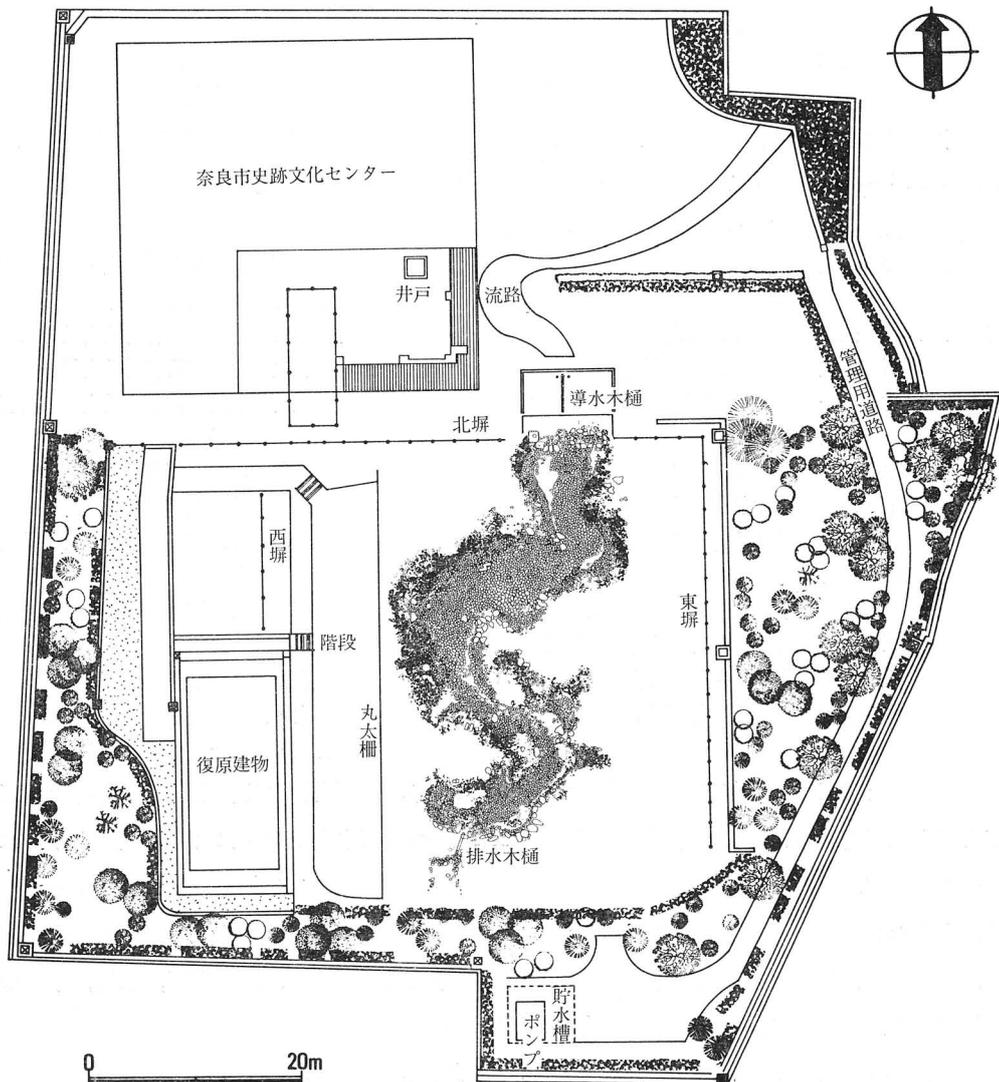


Fig. 52 六坪遺跡の環境整備図